

日本周辺国際魚類資源に関する試験研究

(予算区分 受託 研究期間 平成18年～)

担当：資源海洋科 増田 傑

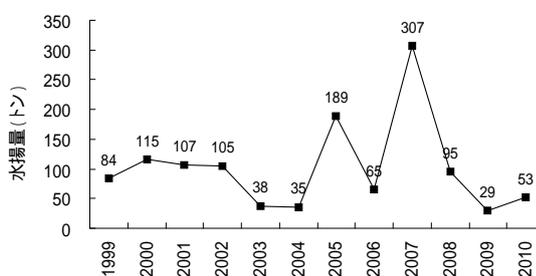
【研究の背景とねらい】

クロマグロ等の高度回遊性魚類に関しては、近年、その資源状態を懸念する声が世界的に高まり、国際漁業機関などによる資源評価が行われ、その資源状態を正しく把握し、必要に応じて種々の管理措置が取られています。このような中、我が国周辺水域においては、多くの高度回遊性魚類が来遊し、多種多様な漁獲・利用がなされていることから、当該資源の安定的な利用の確保のため、我が国周辺水域及び隣接する公海を回遊するこれら資源の科学的データを完備するため(独)水産総合研究センターと連携した調査を行っています。

【これまでに得られた成果】

(平成18～22年度の成果)

平成4年以降の静岡県主要港におけるマグロ・カジキ類、サメ類、カツオの漁獲統計資料を収集・整理しました。これらデータは、国際漁業機関の資源評価に大いに活用されています。



メジ(クロマグロ幼魚)の水揚量の経年変化

【期待される成果】

資源解析に使用する漁業種別漁獲量、努力量、漁獲物体長及び年齢組成等の情報収集を継続的に実施することにより、太平洋の高度回遊性魚類の適正管理に貢献できます。また、毎年蓄積された全国のデータは、国際漁業交渉の場で我が国の立場を主張する有力な裏付けとなり、関係漁業の経営安定に寄与します。

【今後の計画】

高度回遊性魚類の資源評価のため漁獲状況調査と生物測定調査を継続します。

ア 漁獲状況調査

漁業種類	対象魚種	調査場所	調査方法
竿釣、まき網 曳縄、延縄等	マグロ類、サメ類 カジキ類、カツオ	御前崎港等県内18市場	水揚伝票の集計等

イ 生物測定調査

対象魚種	漁業種類	調査時期	測定場所	測定尾数	回数
クロマグロ	竿釣、曳縄	4月～翌年3月	御前崎港等	100尾/回	2回/月
カツオ	竿釣、曳縄	4月～翌年3月		200尾/回	4回/月

(作成 平成23年4月)